

チェックしよう!

## テリアの行動特性と病気

“気性が荒い”、“扱いづらい”などといわれることの多いテリア。  
その特徴や病気、トリミング時の注意点について説明します。  
(ここでは主に、日本で登録頭数が多い3犬種を取り上げます)

文:岩崎雅和(岩崎動物病院院長)

イラスト:石崎伸子

### 1 (ジャック・ラッセル・テリア)

テリア犬種において、日本で最も頭数が多いのはジャック・ラッセル・テリアです。最近では街中でもよく見かけますし、動物病院への来院も多いように思います。この犬種の特徴として挙げられることの多い「食いしん坊」について考えてみましょう。

2009年にオーストラリアで発表された「犬と猫の胃腸管異物」という獣医学の論文には、異物閉塞(異物を飲み込んだために腸が閉塞してしまった状態)の症例が208件掲載されています。それには、イングリッシュ・ブル・テリア、スプリンガー・スパニエル、スタッフォードシャー・ブル・テリア、ボーダー・コリー、そしてジャック・ラッセル・テリアが異物誤食を起こしやすい犬種であると紹介されています。

さらにオーストラリアのほかの論文では、「ヒキガエル中毒が疑われた90頭の犬の回顧的報告(2004)」と題して、ヒキガエルを(オモチャと勘違いしてか)誤って食べてしまった犬種を調査。そこではジャック・ラッセル・テリア、オーストラリアン・シルキー・テリア、およびフォックス・テリアに最も多く認められたと報告されています。(ちなみにヒキガエルには毒性があり、食べてしまうと中毒を起こすので注意が必要なのです)

好奇心も食欲もおう盛で、ヒキガエルをも食べてしまうというお茶目(?)でちょっと困った習性を持つジャック・ラッセル・テリア。異物を誤食する可能性が相当高いと言えそうです。

#### トリミング時の注意点

ジャック・ラッセル・テリアをお預かりした後は、異物を口に入れないよう注意が必要です。誤食は店側の責任となってしまいますから、この機会に、店内に危険なものがないか見わたしてみるとよいかもしれません。異物だけでなく、ジャック・ラッセル・テリアの執着心をあおる「動くもの」や「見知らぬ人」、「ほかの犬」などを近づけない、視界に入らないようにするなど、犬の興奮を防ぐ工夫を。



## 2 (ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア)

かわいらしい外見からか、日本でも根強い人気を誇るテリアです。下記2種類の病気にかかりやすいことが確認されています。

### ●皮膚疾患

アトピー皮膚炎を起こし、皮膚が象のように硬くなる症状(象皮症)はウエスティーに比較的多く見られます。実際に目にしたことのあるトリマーさんも多いかもしれません。

2007年にアメリカで発表された論文にも、ウエスティーが皮膚にトラブルを抱えやすい犬種であることが記されています。遺伝的にアトピー性皮膚炎のリスクを持つウエスティーの症例を集め、アレルギー反応が起こりにくい食餌を与えた場合と、一般食を与えた場合とを比べて、前者でアトピー性皮膚炎のリスクが減少したことが報告されています。また2011年の別の論文では、アトピーではないウエスティーを集めてその血液を調べたところ、環境ダニに対する抗体をアトピーのウエスティーと同じ程度持っていることがわかりました。

この2つの論文を見ると、ウエスティーのアレルギー体質は遺伝的なものであり、たまたま症状として表面化していない場合も多いと考えられます。ふだんからアレルギー食や免疫調整能力のあるサプリメントなどを与えることで、発症を抑える手助けになることもわかりました。

### ●乾性角膜炎

涙の分泌が不十分になることで、慢性の角膜炎や結膜炎を引き起こされる目の病気です。2007年に発表されたアメリカの論文を見ると、44犬種の乾性角膜炎(計229症例)について調査をした結果、ウエスティーが全体の3番目に多く認められたそうです。とくにメスに多く、平均約5歳齢で発症する傾向があると報告されています。

## 3 (ノーフォーク・テリア)

以前は日本では比較的珍しい犬種でしたが、扱いやすいサイズであるためか、ここ数年でよく見かける犬種となりました。以下の病気には要注意です。

### ●股関節形成不全

2011年発表のアメリカの論文において、ノーフォーク・テリアに起こりやすいと報告されています。これは股関節の連結部分が緩むことで、後肢の跛行(足を引きずって歩くこと)や歩行の異常が見られる病気です。ノーフォーク・テリアの胴長の体型が、発症の一因ではないかとされています。



### トリミング時の注意点

皮膚や目の症状は、トリマーさんが最も気づきやすいもの。トリミングの前後に必ず皮膚や目の状態を確認して、少しでも変わったところがあれば、飼い主さんに伝えた上で動物病院の受診を勧めてください。

とくに5歳前後のウエスティーが来店した際には、目やにや涙の量に異常がないかチェックしてからお返しするとよいでしょう。



### トリミング時の注意点

股関節に異常のある犬は、左右の足で筋肉量が異なります。トリミングの際にさわってみて、違和感や筋力の低下などを感じた場合は、飼い主さんに動物病院の受診を勧めましょう。